

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成26年1月30日(2014.1.30)

【公開番号】特開2012-188643(P2012-188643A)

【公開日】平成24年10月4日(2012.10.4)

【年通号数】公開・登録公報2012-040

【出願番号】特願2011-206321(P2011-206321)

【国際特許分類】

C 08 J 3/24 (2006.01)

C 08 J 9/18 (2006.01)

【F I】

C 08 J 3/24 C E S

C 08 J 9/18

【手続補正書】

【提出日】平成25年12月9日(2013.12.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ポリプロピレン系樹脂100重量部を、多官能性单量体0.1~1重量%を含む芳香族系ビニル单量体40~100重量部に由来する重合樹脂で改質した改質ポリプロピレン系樹脂粒子であり、前記芳香族系ビニル单量体に由来する重合樹脂の架橋に由来してゲル分率10~40重量%を示すことを特徴とする改質ポリプロピレン系樹脂粒子。

【請求項2】

前記改質ポリプロピレン系樹脂粒子が、測定1回目のDSC曲線において少なくとも2つのピークを有しかつ最も低い側のピークが110~130の範囲にある請求項1に記載の改質ポリプロピレン系樹脂粒子。

【請求項3】

前記ポリプロピレン系樹脂が5~10g/10分の230におけるメルトフローレートを有し、かつ前記改質ポリプロピレン系樹脂粒子が前記ポリプロピレン系樹脂より1~5g/10分低下した230におけるメルトフローレートを有する請求項1または2に記載の改質ポリプロピレン系樹脂粒子。

【請求項4】

前記ポリプロピレン系樹脂の2回目昇温時のDSC曲線による最初の融解ピーク温度が、125~145である請求項1~3のいずれか1つに記載の改質ポリプロピレン系樹脂粒子。

【請求項5】

請求項1~4のいずれか1つに記載の改質ポリプロピレン系樹脂粒子を予備発泡して得られた予備発泡粒子。

【請求項6】

請求項1~4のいずれか1つに記載の改質ポリプロピレン系樹脂粒子100重量部に対して発泡剤20~50重量部を用いて含浸処理して発泡性改質ポリプロピレン系樹脂粒子を得、得られた発泡性改質ポリプロピレン系樹脂粒子を0.1~0.2MPaの圧力の加熱水蒸気で5~60秒間加熱することで予備発泡させて、嵩密度が0.01~0.07g/cm³である改質ポリプロピレン系樹脂の予備発泡粒子を得ることを特徴とする予備発

泡粒子の製造方法。**【請求項 7】**

前記改質ポリプロピレン系樹脂粒子 100 重量部に対し 0.1 ~ 2.0 重量部の無機物成分をブレンドし予備発泡する請求項 6 に記載の予備発泡粒子の製造方法。

【請求項 8】

請求項 5 に記載の予備発泡粒子を型内に充填した後、型内体積に対して 20 ~ 50 % 増加のクラッキング条件下で水蒸気により型内成形することにより得られた発泡成形体。

【請求項 9】

前記発泡成形体が、7 日間の耐熱試験において $\pm 1\%$ 尺法変化する温度が 100 以上である請求項 8 に記載の発泡成形体。